◆◆ 会議録 ◆◆

会議名	令和6年度第2回阿南市総合計画審議会		
開催年月日	令和6年11月7日(木)	資料の有無	無・(有) →別紙
会場	阿南市役所2階 202・203・204会議室		
出席者	<p>【委員】 小笠原委員、紅露委員、坂本委員、鈴江委員、西直子委員、西浩司委員、西岡委員、原田委員、松崎委員、美濃委員、箕島委員、撫養委員、山本委員、米田委員、片山委員、和田委員 計16人</p> <p>【市】 岩佐市長、西田副市長、平井副市長、東條政策監、篠原政策監、吉積企画部長、幸泉総務部長、中川危機管理部長、田中市民部長、湯浅環境管理部長、荒井保健福祉部長、清原商工政策課長、兼任土木課長、高山都市整備部長、小坂会計管理者、安田水道課長、中橋教育部長、小西消防次長、佐坂議会事務局長 計19人</p> <p>【事務局】 七條企画政策課長、脇坂課長補佐、井坂主査、豊崎主事</p>		
内 容			
<p>(13:30 開会)</p> <p>【七條企画政策課長】 定刻がまいりましたので、ただいまより、令和6年度第2回阿南市総合計画審議会を始めさせていただきます。委員の皆様には大変お忙しい中、御出席賜りまして誠にありがとうございます。第2回目となります本日は、お手元の次第の人口ビジョンの策定、総合計画の中間見直しによる基本構想(案)と基本計画の策定方針について御審議をいただきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。 それでは、開会にあたりまして、岩佐市長より御挨拶を申し上げます。</p> <p>【岩佐市長】 皆様におかれましては、公私、御多忙にもかかわらず、阿南市総合計画審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。 前回9月に開催いたしました1回目の阿南市総合計画審議会では、委員の皆様から貴重な意見を頂くことができ、大変有意義な会となりました。さらに、市民アンケートや高校生アンケート、パブリックコメントを実施し、市民の皆様からも様々な意見を頂いております。 本日の審議会では、前回皆様から頂いた御意見やアンケート・パブリックコメント等の結果を反映した基本構想の素案をお示しさせていただいております。また、基本計画の見直しに向けた方針案についても提案させていただいております。 本日は限られた時間の中ではございますが、委員各位の忌憚のない御意見をお聞かせいただければと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>【七條企画政策課長】 ありがとうございました。</p>			

本会議は、阿南市総合計画審議会設置条例第5条第4項の規定により、公開されております。また会議録作成のため、議事進行中は録音をさせていただき、会議録は、ホームページに掲載させていただきます。

本日は、青木委員、池添委員、兼松委員、佐竹委員、田上委員、中川委員、永田委員、中野委員、新居委員から欠席の御連絡をいただいております、委員16名に御出席いただいておりますので、同条例第5条第2項の規定により、会議は有効に成立していることを御報告申し上げます。

それでは、早速でございますが、議事に移りたいと思います。

これより議事進行は、箕島会長にお願いいたします。

【箕島会長】

それでは、会議を進めていきたいと思っております。

本日は、「人口ビジョンの策定について」「基本構想（案）について」「基本計画の策定方針について」の3件が議題となっております。

まず、議題1「人口ビジョンの策定について」、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1 阿南市人口ビジョン2024年策定版につきまして資料に沿って説明申し上げます。

阿南市の人口ビジョンですが、阿南市では2015年度に初めてとなる人口ビジョンを策定しております。前回は4年前の2020年です。

人口ビジョン2024年策定版は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が2020年に実施した国勢調査を確定数として、2023年に公表した日本の将来推計人口の結果概要と徳島県の推計人口等に基づいて算定しております。

阿南市人口ビジョン2024年策定版の流れです。①人口動態（自然動態、社会動態など）を分析、②阿南市人口ビジョン（2020年策定版）の趨勢人口や戦略人口の検証、③将来人口（趨勢人口）及び将来世帯数の推計、④人口減少下の地域社会について予測できることを整理、⑤将来人口（戦略人口）の見直しという流れで構成しております。この構成は、2020年を基に、今回新たに一番直近の数値に変更しております。

用語説明です。趨勢人口と戦略人口ですが、趨勢人口とは、戦略的な取組（総合戦略）を行わない場合に見込まれる将来推計人口となっております。戦略人口とは、戦略的な取組（総合戦略）を行った場合に見込まれる将来推計人口となっております。

1ページを御覧ください。策定の趣旨でございますが、「阿南市人口ビジョン（2024年策定版）」（以下「人口ビジョン」という。）においても、引き続き、国や県の長期ビジョンや総合戦略等を勘案し、2023年に公表された社人研の人口推計結果や社会情勢の変化、本市の人口動向やこれを取り巻く課題を踏まえながら、策定することとしております。（2）人口ビジョンの位置づけですが、人口ビジョンは2020年10月以降（前回の国勢調査）の人口の現状や人口の推計等を分析しております。（3）対象期間ですが、人口ビジョンの対象期間は、国の「長期ビジョン」及び徳島県の「とくしま人口ビジョン（2020年策定版）」、前計画の「阿南市人口ビジョン（2020年策定版）」の期間と同様の2060年までとしております。

2ページを御覧ください。（4）国の長期ビジョン、総合戦略につきましては、国の長期ビジョンにおいては、合計特殊出生率が2030年に1.8、2040年には人口置換水準

と同程度の値である 2.07 まで回復することを前提に、人口の長期的展望として、2060 年に約 1 億人を確保することを示しております。（5）徳島県の人口ビジョンにつきましては、2020 年に策定しており、見直しを行っておりませんので、前回と同様の内容となっております。

3 ページを御覧ください。国の人口の推移です。グラフにあります日本の人口推移で、日本の人口は近年減少局面を迎えております。2070 年には総人口が 9,000 万人を割り込み、高齢化率は 39%の水準になると推計されております。総務省統計局が 2024 年 4 月に公表した「人口推計 2023 年（令和 5 年）10 月 1 日現在」の結果概要は次のとおりです。2023 年の総人口は 1 億 2,435 万 2 千人、15 歳未満の人口は 1,417 万 3 千人と過去最低となっております。65 歳以上人口は 3,622 万 7 千人と、これは過去最高となっております。都道府県では、人口増加は東京都のみであり、人口増減率も東京都は 2 年間連続で増加しておりますが、徳島県の人口増減率は -1.27%で全国 39 位です。徳島県は自然減、社会減ともに多くなっております。

4 ページを御覧ください。人口分析の人口動向です。（1）年齢 3 区分人口と従属人口指数の推移の平成 2 年から令和 2 年までのグラフとなっております。従属人口指数は、生産年齢人口 100 人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示す指数であります。平成 2 年の 51.8 から令和 2 年には 84.1 と大きく増加しております。

5 ページを御覧ください。（2）自然動態です。令和 2 年から令和 5 年までの出生数・死亡数についてですが、死亡数が出生数を上回る自然減で推移しております。出生数も、令和 2 年は 408 人、令和 5 年は 369 人と年々減少しており、死亡者数は、令和 2 年から増加しております。令和 5 年は 1,123 人が亡くなっており、自然減は 754 人となっております。（3）社会動態です。令和 2 年から令和 5 年までの転入者、転出者数についてみると、転出者が転入者を上回る社会減で推移しております。令和 5 年は転入者が 1,533 人、転出者は 1,768 人となっております、235 人の社会減となっております。

6 ページを御覧ください。出生・死亡・婚姻の状況ですが、出生の状況につきましては、本市の合計特殊出生率は 2003 年から 2007 年までから 2013 年から 2017 年にかけて上昇してはりましたが、2018 年から 2022 年は 1.49 と下降しております。

7 ページを御覧ください。結婚の状況です。本市における女性の有配偶者率をみると、令和 2 年の国勢調査におきましては、ほとんどの年代で国や徳島県を上回っている状況です。（3）死亡の状況です。令和 2 年から令和 5 年までの年齢別死亡者数についてみると、令和 5 年は 1,123 人と、過去 4 年間で初めて 1,000 人を超えております。

8 ページを御覧ください。転入・転出の状況です。令和 5 年の転入・転出の状況についてみると、転入者数と転出者数は男女ともに 20 歳から 29 歳で最も多くなっております。

9 ページを御覧ください。移動先につきましては、本市への転入者は 1,533 人、転出者は 1,768 人となっております。

10 ページを御覧ください。産業の状況で、青の線が平成 27 年の国勢調査のデータ、下のピンクの線が令和 2 年の国勢調査のデータとなっております。

12 ページを御覧ください。市内の常住者の就業先についてのグラフとなっております。上のグラフでは、製造業 6,859 人のうち、5,737 人が市内で、1,122 人の方が市外で仕事をされている状況です。下のグラフは市内従業者の常住地でございます。こちらについても製造業が多く、市内の方が 5,737 人、市外の方が 4,124 人となっております。

13 ページを御覧ください。阿南市人口ビジョン（2020 年策定版）で想定した将来人

口の検証となっております。(1)の表は上に人口ビジョン(趨勢人口)、中段が人口ビジョン(戦略人口)、下段が徳島県推計人口となっております。徳島県推計人口の2020年が6万9,470人、これは2020年の国勢調査10月1日現在の人口です。2021年が6万8,580人、2022年が6万7,673人、2023年が6万6,675人、2024年の6万5,676人が今年10月1日現在の確定値でございます。

阿南市人口ビジョンは国勢調査ベースで推計しており、住民基本台帳との実績値とは大きく異なっております。そこで徳島県推計人口の各年10月1日現在の数値を実績値と仮定し算出を行っております。下の表はそれぞれ期待された戦略効果、実際の戦略効果となっております。下段のとおり①2024年までの4年間では趨勢人口より624人の増加を見込んでおりました。②2023年には人口減少が想定以上に進み、2024年では趨勢人口より289人、戦略人口より913人少なくなっております。

14ページを御覧ください。移住者の実績です。これは徳島県のホームページからです。阿南市は令和2年度から令和5年度の間で徳島県内で2番目の1,102人を受け入れております。下の表は自然動態・社会動態の推移です。一番右の令和5年のグラフで、ピンク色が自然動態、青色が社会動態を示しており、合計997人の減少となっております。

15ページは、趨勢人口の推計の概要を記載しています。

16ページの(6)の趨勢人口の比較を御覧ください。今回の推計では、2060年人口において3万5,476人となっており、前回推計における2060年から人口が2,380人少なくなっております。これは前回と比べて出生パラメータとする合計特殊出生率の数値が異なることや、子ども女性比をはじめとした社人研の各種仮定値が平成30年と令和5年で変化していることなどが考えられております。

17ページを御覧ください。年齢3区分別人口の推計です。まず0歳から14歳の年少人口ですが、構成比をみると2030年には10%を下回り、その後も減少を続けております。15歳から64歳の生産年齢人口は、構成比をみると2050年には老年人口を下回ることとなっております。(3)老年人口ですが、65歳以上の老年人口は2020年に2万3,315人となっております。2025年には一度増加に転じますが、その後は減少を続け、構成比では2060年において高齢化率は48.0%となることが予想されております。

18ページを御覧ください。年齢3区分別人口の変化率の推計と地区別人口の推計です。2020年の人口を「100」とした場合、地区別人口の将来動向をみると2060年には椿(伊島)、橘、福井、新野、加茂谷の地区人口は、2020年比で2割程度まで減少すると予測されております。また、40年後の各地区の人口割合の分布では、全体の半数近い人口が那賀川、羽ノ浦、富岡に偏在することが見込まれております。

19ページを御覧ください。人口推計で本市において高齢者人口のピークは2025年と推計されております。国よりも早く、徳島県とは同時期となっております。2060年には48.0%と総人口の約半数が65歳以上になることが予想されております。

20ページを御覧ください。人口ピラミッドの変化の表となっております。左上から2020年から下の方にいき、上の方に上がりまして2060年の人口ピラミッドの形となっております。

21ページを御覧ください。将来世帯数の推計です。2020年の2万7,368世帯から2060年には1万6,610世帯と約4割が減少する予想とされております。

22ページを御覧ください。①の人口減少・少子高齢化の進行となっております。本市の将来人口推計結果です。2030年には約6万人、2060年には約3万5千人となります。今後40年間で総人口の半数近くまで減少することが見込まれております。年齢構成比

の変化につきましては、年少人口 2020 年は 12.0%でしたが、2060 年は 7.6%に低下、逆に老年人口は 2020 年の 33.6%から 2060 年は 48.0%に上昇します。今後さらに少子高齢化が進むことが予想されております。③加速度的に減少する労働人口について、生産年齢人口ですが、2020 年は約 3 万 7 千人でしたが、2030 年は 3 万 2 千人、2050 年以降は 2 万人を切ると見込まれております。

23 ページを御覧ください。人口減少の要因となる自然動態・社会動態の推移をみると、2010 年以降、自然動態が減少に転じ、同時に社会減も継続する「二重の人口減少」の時代に突入しております。⑤増加する単独世帯です。本市の世帯構造は転換期を迎えております。総世帯は 2020 年をピークに減少に転じたものとみられますが、単独世帯は 2030 年まで増加する見込みです。特に、高齢者の単独世帯は 2040 年まで増え続けると予測されております。

23 ページから 26 ページにあります人口減少がもたらす地域経済、まち・生活への影響につきましては、記載のとおりでございますので割愛させていただきます。

27 ページを御覧ください。将来人口の推計ですが、前回の阿南市人口ビジョン（2020 年策定版）の概要となっております。③人口ビジョン（目標人口）につきましては、2020 年に策定した目標は 2060 年において 5 万 1 千人超を目指すこととしておりました。

29 ページを御覧ください。徳島県の人口ビジョンの概要です。2015 年策定の徳島県の人口ビジョンでは、総人口の目標を 60 万から 65 万人超としておりましたが、2020 年策定の人口ビジョンでは 55 万人から 60 万人超と約 1 割減の目標となっております。徳島県は人口ビジョンの改定の予定はないとのことですので、2020 年策定版が一番最新となっております。

30 ページを御覧ください。阿南市の戦略人口のシミュレーションです。趨勢人口をベースに今後の人口政策の効果を見込みつつ、将来の人口シミュレーションを行います。シミュレーションは阿南市人口ビジョン（2020 年策定版）と同様に県の将来人口の推計方法を参考に、移動に関する 3 つのシナリオと出生に関する 2 つのパターンの組み合わせにより、3 パターンの推計を行っております。①現実的なシミュレーション、出生率がこの数字で推移し、社会増減が均衡であれば、2060 年は 4 万 1 千人超、②徳島県の人口ビジョンを参考にしたパターン B は、社会増減が 2030 年から年 84 人、180 人と増やし、2060 年は目標人口 5 万人、③徳島県の人口ビジョンを参考したパターン C は、移住人口を増やし、2060 年の目標人口を 5 万 4 千人とする 3 パターンの推計を行っております。

31 ページをお願いいたします。各種シミュレーションの結果などを踏まえ、徳島県の人口ビジョンを参考にしており、戦略人口としてパターン B の確保を目標とします。阿南市総合計画 2021▶2028～咲かせよう夢・未来計画 2028～」において、合計特殊出生率の向上や定住・転入促進などを図るため総合的な施策を展開することにより、人口減少を抑制し、2030 年には 6 万 500 人、2060 年には 5 万人超を維持することを目指していきます。繰り返しになりますが、前回の人口ビジョンでは 2030 年の目標が 6 万 3 千人、2060 年が 5 万 1 千人としておりましたが、下方修正をして 2030 年は 6 万 500 人、2060 年 5 万人を目指す目標としております。

32 ページを御覧ください。目標人口の年齢 3 区分別人口となっております。年少人口につきましては、2060 年には 12.8%にまで増加することを目指しております。生産年齢人口 15 歳から 64 歳は、2060 年には 51.6%、老年人口は、2045 年をピークに、2060 年には 35.6%程度を目指しております。

33、34、35 ページはそれぞれの年齢区分の将来展望となっております。

最後に 36 ページは将来展望のまとめになります。ここには記載していませんが、2015 年の徳島県の人口が 75 万 5 千人、今年 10 月の人口が 68 万 5 千人、約 9 年間で 7 万人もの人口が減少となっております。また、阿南市は、2015 年が 7 万 3,019 人、今年 10 月が 6 万 5,676 人と 9 年間で約 7,300 人もの人口が減少となっております。引き続き、人口減少の抑制に向けた取組を進め、魅力あるまちづくりを推進するとともに、人口減少に適応した効率的・効果的なものに再構築するまちづくりを進めていく必要があります。

以上、人口ビジョンの説明とさせていただきます。

【箕島会長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの人口ビジョンの策定について、御質問・御意見をお受けします。御意見等がある方は、挙手をお願いします。

【山本委員】

私は、公民館に勤めております。先ほどの説明にあったように高齢者が増えて、子どもが少ない状況は全国的なものだと思います。私が一番望んでいることは、高齢者ができるだけ元気で長生きしてほしいということです。富岡地区は人口約 8,000 人であり、そのうち後期高齢者の 75 歳以上が現状として約 1,800 人です。とても多いと思っていたのですが、敬老祝賀会に呼ぶと 100 人ほどしか来てくれない。どうしてですかと聞くと、多くの方がバスが出ていない、タクシーがないため行く手段がないという理由で、家にひきこもってしまいます。これは本当に良くないと思うので、町内の若い人が保険をかけてもらって、市が保険をかけて、若い人が送迎できるような仕組みを作っていたらありがたいです。高齢者は会に来るととても喜んでくれます。家でひきこもってしまうと、寿命も短くなると思いますので、ぜひとも、外へ出て行ける方法を、行政にはお願いしたいと思っております。

また、私は小学校のお世話をいろいろとしています。母校の富岡小学校は私の年代の児童は 1,400、1,500 人くらいでした。それが今では 430 人と人数が大幅に減少しています。これは仕方ないことと思いますが、高齢者は増えていきます。高齢者を大事にしないと阿南市の人口も減ってしまうのではないかと思いますので、高齢者のことも大事にしてほしいと思います。

【紅露委員】

婦人会がとても辛い状況です。私が引き受けて、約 10 年になりますが、5,000 人くらいいた会員の数が今は 2,000 人くらいです。

それぞれ自分たちがしたいことは積極的にしますが、地域のためにであったり市のためにというような活動では、みんなと一緒にやっという気持ちが少ないと感じています。また、行きたい場合であっても、多くの方が山本委員がおっしゃったように行くことができない、歩いていくには遠い、誰かに送ってもらわなければならない、というような状況となっています。桑野に住んでいるとマーケットもない、自分たちが楽しむ場所がコミュニティセンターくらいしかないので、できるだけみんなが集まることができるといよいよイベントをしようと思っております。桑野公民館の方も考えてくれております。けれど

も、そこに行くには距離があって、交通の便もない状況です。皆さん誰かと一緒に行っているとおしゃべりをしようという気持ちはあって、必ず帰りには楽しかった、また来年も元気に来るからしてほしい、と言ってくれます。

桑野の場合は、敬老会の対象者が約450人おり100人ほどは来てくれるのですが、皆さんが望んでいることと違うことをしているのかなと私たちは反省しております。何か心が開けるような楽しみやイベントを増やしたり、交通の便をよくしたり、歩いて行くことができるような距離に集会所などがあれば、もっともっと楽しめるかと思います。しかし、それをお世話する人たちも75歳以上です。また、今のところ敬老会をしたり、こどもと高齢者が関わるようなイベントもしてはいますが、こどもは部活や塾で忙しいようで、クリスマス会をしても2人、3人で学童の子たちを誘ってようやく成り立つという状態です。イベントの際には誘い出してはいるのですが、それぞれの家庭で自分の楽しみを持っているようです。集団の中に入っていくことが苦手な人も多いとも感じます。いい案があれば私たちに教えていただけたら嬉しいと思っております。よろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。意見を反映させていただきます。

【小笠原委員】

人口ビジョンの御報告で非常によくまとめられていると思います。大変立派な数字がでておまして、人口減少は我々も当然だなと最近の出生率からも思います。

阿南市の人口のいわゆる産業別の特徴が、この中にはあまりありません。

昔、長年県外にいたので、徳島に帰ってくると立派なビルが田舎にあるなど思っていたら、ほとんど老人介護施設でした。この資料の中で医療・福祉の数字が非常に大きいですが、この医療は医師・医療ではなく、ほとんど介護関係ではないかと思います。ただし、阿南市は非常に大きな産業の基盤を持っているはずで、製造業は御存知のとおり、大企業的なものがあります。このような都市の構造を、例えば、小松島市や鳴門市又は徳島県以外と比較するなど、阿南市の人口について他との比較での特徴をもう少しまとめた方がいいのではないかと思います。

特に大きな企業が今後成長をしていく場合に、ますます人口の動態に関係してくると思いますので、最近バッテリー産業などと謳っているようではありますけれども、そのような人口の構造的な特徴をどこかでまとめていただけたらと思います。

【事務局】

他の市の分析もしまして、阿南市の特徴をもう一度精査させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

【平井副市長】

副市長の平井でございます。御意見を頂きましてありがとうございます。

人口ビジョンを4年ぶりに現時点の状況を踏まえて数字の見直しをしまして、今日改めてお諮りしたところでございます。厳しい数字となってきているところでございます。この4年間に新型コロナがございました。コロナ禍におきまして、国全体、徳島県でも新型コロナの影響が大きいと思えますけれども、想定以上に出生率が下がり、その

回復がなかなかできていない状況です。

先日、日本全体で近年1年間の出生数が80万人を切ったことが大きなニュースになっておりましたが、今年70万人を切るのではないかという報道もされていたところがございます。非常に厳しい状況でございます、それがこの推計人口にも表れてきているというところかなと思っております。

そうした中で、コロナ禍を明けて、阿南市を活性化させていくためには、先程来お話がございます、市民の皆様の交流促進、人と人とのきずな、人と地域、地域と地域のきずなづくりが非常に重要だと思っております。

公民館が交流の拠点となってくださっておりますので、機能の重要性は増していること承知しております。敬老会をこの秋、各地域で順次開催していただき、私も加茂谷に行かせていただきました。加茂谷地区は、昨年より多く御出席されているという話を伺いましたので、コロナ禍を明けた実感とコロナ禍前のような交流が再びできてくる可能性があるのではないかと感じているところでございます。

後ほど御審議していただきますけれども、「健康でひとに優しい阿南」の創生ということで、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、小笠原委員から産業特性に応じた観点で人口ビジョンを作っていくべきではないかという御意見を頂きました。今後、基本計画ということで具体的な施策も作っていくわけですが、その効果が人口動態や自然動態にどう影響を及ぼすのか、そのような観点をこれからより一層強く持って取り組んでいきたいと考えております。

【箕島会長】

続きまして、議題2「基本構想（案）について」、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、まず、市民アンケート調査の結果について、御説明させていただきます。本日お配りしております差替分の資料2-2を御覧ください。

1ページですが、市民アンケートは無作為抽出した市民3,000人を対象に、8月29日から9月17日までの期間でアンケート調査を実施しました。回答率は、41.3%で、1,239人から回答がありました。前回の調査と比較して、回答率は、2ポイントアップしております。また、Web回答が、前回12件であったのが、今回は、21.5%がWEB回答と大幅に上昇しています。

3ページを御覧ください。このグラフは左右が各施策の重要度、上下が満足度を示しています。重要度も満足度も高い施策はA領域で、「子ども・子育て支援」「健康づくり・地域医療」「学校教育」「防災・消防」などとなっています。一方、重要度は高いのも関わらず満足度が低い施策はB領域で、「農林漁業」「商業」「雇用環境」「道路・交通」となっています。

4ページは前回の結果でございますが、A領域とB領域ともに大きな変化はなく、産業分野と交通インフラが課題となっています。

14ページを御覧ください。問8、阿南市に愛着を感じていますかとの設問では、「とても愛着がある」が28.5%、「どちらかといえば愛着がある」が48.9%となり、75%以上の方が愛着を感じています。また、居住年齢別では、居住年数が長くなるほど、愛着を感じる割合が高くなっています。

次に、先に郵送させていただいておりました資料の14ページを御覧ください。問9、

阿南市の魅力を問う設問では、「豊かな自然環境に恵まれている」と「市街地がちょうどよい規模である程度の商業施設が立地している」が上位にきています。豊かな自然環境を次世代に残していくことは、重要であると考えます。

19 ページ、問 13 の今後の阿南市のまちづくりを進めていく上で重視すべきキーワードを問う設問では、前回より若干低下したものの「安全・安心」が 52.6%、「快適さ」が 30.7%となっています。

29 ページを御覧ください。問 18、今後のまちづくりを進める上で、どのような施策が重要かとの設問には、「防災・消防」「健康づくり・地域医療」「子ども・子育て支援」について、90%以上の方が重要であると回答しています。今回の基本構想の見直しにあたっては、「防災」「子育て」を重視して見直しを行っておりますので、アンケート結果にも合致した見直しとなっています。

34 ページを御覧ください。問 23、「現在の幸福度」を問う設問では、「とても幸せ」を 10 点「とても不幸」を 0 点とすると、8 点の割合が最も高く 21.5%となっており、平均は、6.63 点となっています。これは、前回結果と変わっておりません。

問 23 から問 31 は、ウェルビーイングに関する設問になっており、今後、結果を基に、主観指標と客観指標による暮らしやすさと幸福感の関連を分析し、各種施策に生かすこととしております。

次に 51 ページ、問 32 の「理想の幸福度」を問う設問では、平均で 7.88 点となっており、前回調査から 1.04 点上昇しています。理想とする幸福度が上昇したことにより、現在の幸福度には変化がないものの、幸福満足度は、84.1%となり、前回調査時の 96.8%から 12.7 ポイント下落しているという結果となりました。

続きまして、本日お配りしております、資料 2-2、高校生アンケートの結果について御説明させていただきます。

1 ページを御覧ください。高校生アンケートは市内の高校に通う 2 年生全員 750 人を対象に、9 月 26 日から 10 月 11 日まで実施しました。回答率は、386 件 51.5%となっています。今回は、基本、WEB 回答をお願いしましたので、回収率が前回より大幅に下がる結果となりました。

集計結果につきましては、3 ページを御覧ください。問 3 ですが、コミュニティ活動に参加したことがないと回答した割合が 59.1%となっており、地域とのつながりが希薄化していることが表れています。

6 ページの問 6、魅力を感じている仕事については、「医療・看護関係」「情報通信・IT 関係」「工業・製造業関係」が上位となっていますが、「医療・看護関係」「工業・製造業関係」は、令和 2 年の阿南市産業別就業者数の上位 2 種であり、就労希望のある高校生を受け入れやすい環境が整っていると考えられます。

しかしながら、8 ページの問 9 では、阿南市内で働きたい魅力を感じる企業・就職先があるかという設問には、半数近くがないと回答しています。

13 ページの問 14 では、進学・就職等でいったん市外へ出るが将来は阿南市に戻って住みたいと考える割合が 33.9%と最も高くなっています。昨年度、大正大学が実施した研究では、子どものときから地域活動に関わることが U ターンにつながるのではないかということも言われておりますので、地域の歴史や文化と触れあえる環境を整えるまちづくりも必要であると考えております。

15 ページの問 16、まちづくりにおいて重視するキーワードについては、「安全・安心」と「快適さ」の上位 2 つは、市民アンケートと同じ結果となっています。

続いて、基本構想（骨子案）に関するパブリックコメントについて、御説明させていただきます。

資料3を御覧ください。

パブリックコメントは、第1回の総合計画審議会委員の皆様からいただいた御意見を反映した、6つの基本政策と政策の大綱について、10月8日から21日までの期間で実施いたしましたところ、6名の方から御意見をいただきました。

御意見としましては、1人目の方からは、「地方創生との観点から基本政策が策定されたことは素晴らしいが、予算とリンクさせPDC Aサイクルを構築すべき」との御意見を頂きました。市の対応としては、新たな基本政策の下で基本計画・実施計画を策定し、PDC Aサイクルを回すことにより、実行性を高めていきたいと考えています。

2人目の方は、「防災、子育て、脱炭素を共通政策として設定したことは、自治体としての課題をしっかりと見据えた計画になる。」また、「「子育て日本一のまち」になることを望んでいる」との御意見でございます。

3人目の方からは、「こどもを中心とした「こどもまんなか笑顔あふれる阿南」は素晴らしい未来だと感じる。しかし、乳幼児から学生まで、大きくくりでこどもを捉える範囲が広すぎる。こどもが夢を追い求める過程では大人との関わりが不可欠であり、こどもも大人自身も共に成長できるよう、地域愛着や生きがいを感じ、共に利用できる「ワーキングスペース」や「サードプレイス」を設置し、交流が生まれることがこどもの成長につながる」との御意見を頂いています。

本市としては、結婚、妊娠、出産から卒業までを一体的切れ目なく支援することとし、こどもと大人の交流の場に関しては、今後整備予定の図書館や那賀川社会福祉会館において可能な限り実現してまいりたいと考えています。

4人目の方からは、基本政策の見直しについての御批判を頂いておりますが、今回の見直しの趣旨等を市民の皆様にご理解いただけるよう説明を尽くしてまいりたいと考えております。

5人目、6人目の方は、個別施策についての御意見ですので、実施計画で対応するほか、担当課において事業の必要性等を判断してまいることとしております。

以上がパブリックコメントの結果と市の対応でございます。

続きまして、基本構想の素案について御説明します。

資料4を御覧ください。

現行の総合計画は8年間の計画であり、行政の継続性の観点から大枠は維持しつつ見直しを行うこととしており、第1章から第3章については、策定から4年が経過していることに合わせての表現の変更のみを行っています。変更している部分は、赤色アンダーラインの箇所となります。

5ページの「第4章 2028年の都市像」については、第3章の「2028年に向けたまちづくりの視点」を踏まえつつ、本市を取り巻く激しい環境変化を的確に捉え、新たな都市像を「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」としました。

市民の皆様お一人おひとりの持つ個性、また、地域の持つ個性の輝きをより一層市民の皆様と共に育み、人と人の絆、人と地域の絆、地域と地域の絆を一段と深める、まさしく「輝く個性を育む 阿南」を目指します。

また、本市の持つ多様な生き物を育む豊かな自然環境と1次産業からLED製造メーカーをはじめとする国内有数の企業が立地する産業・経済環境という強みをさらに伸びゆくものとするとともに、恵まれた自然・歴史・文化などの地域資源を生かした観光振

興や新時代の産業創出など、まさしく「自然と調和した産業都市 阿南」を目指します。

2028年に向けて、「輝く個性」を育み、その個性が存分に発揮されることで、「自然と調和した産業都市」がより一層伸びゆくものになる、そのような阿南の創生を目指すという強い思いを込めております。

次の6ページの「第5章 将来人口」は、先に説明しました人口ビジョンをもとにしています。差替分の7ページの下でございしますが、総合的に施策を展開することにより、総合計画の最終年次2028年の目標人口は、62,000人超を目指すこととします。

8ページから10ページの「第6章 基本政策（まちづくりの行動指針）」について、基本政策の設定に際しては、市民の皆様一人ひとりの想いから出発する市政、人にやさしい、人に寄り添い、市民の皆様の幸せをカタチにする市政を基軸に、人口減少社会に立ち向かい、持続可能な地域づくりに取り組む地方創生の理念を取り入れる必要があります。そこで、アンケート結果でも示されております「災害に強い強靱で安心安全なまちを創ること」「未来の宝である子どもを健やかに育むこと」をはじめ、「本市の自然や歴史・文化を活用した観光・交流の推進」「地域の個性を重視し市民自らが携わる持続可能なまちづくり」の4つの視点から従来の基本政策を見直し、新たな6つの基本政策に沿って施策を展開することとしました。

基本政策1から6については、前回の審議会でお示した骨子案から委員の皆様のご意見やパブリックコメントでの御意見を踏まえ、一部修正をしております。

基本政策1は、「災害に強く安全・安心な阿南」の創生～強靱で自然と調和するまちに～として、自然災害への対応をはじめ、市民や企業と協力して地域防災力を高めるとともに、消防・防犯・交通安全対策の推進や、インフラ整備・強靱化により安全・安心して暮らせるまちづくりを進めます。併せて、自然環境や生物多様性の適正な保全や脱炭素社会の実現にも取り組みます。

基本政策2は、「地域産業が伸びゆく阿南」の創生～多様な産業が元気いっぱいのもちに～として、将来において高速自動車道が開通することによる利便性を生かし、県南の産業都市として地域産業の更なる振興を図るとともに、次世代技術の実装やバッテリーバレイ構想等との連携により新産業の創出や企業立地を推進し、雇用の拡大に努めます。

基本政策3は、「子どもまんなか笑顔あふれる阿南」の創生～子育て日本一のまちに～として、本市の宝である子どもを健やかに育むため、出会いから妊娠・出産・教育まで、子どもを中心として支援に一体的に取り組み、子育て日本一のまちを目指します。

基本政策4は、「健康でひとに優しい阿南」の創生～誰ひとり取り残さない共生のまちに～として、年齢・性別、障がいの有無等にかかわらず、個々のニーズに応じたサポートを提供し、誰もが活躍できる環境づくりに努めるとともに、地域全体で市民の健康的な生活を支える地域づくりを推進し、地域共生社会の実現を目指します。

基本政策5は、「歴史・文化とスポーツでにぎわう阿南」の創生～地域の誇りが交流を生むまちに～として、市民が地域の歴史や文化に誇りを持ち、生きがいを持って元気に暮らすことできるまちづくりを目指すとともに、地域資源を活用した観光などの新事業の創出に取り組み、産業振興、移住・定住の促進、関係人口・交流人口の拡大につなげ、持続可能なまちを目指します。

基本政策6は、「地域の個性ときずなが輝く阿南」の創生～持続可能で進化するまちに～として、地域の個性を重視し、コミュニティの強化を図るとともに、市民と地域課題等を共有し、市民自身が課題解決やまちの未来に直接携わることができる制度を創

出することで市民自治力の高い市政を推進します。

次に、11 ページの「第7章 共通政策（横断型の視点からの政策）」については、今回の見直しにおいて新たに取り入れた考えとなります。全ての施策を推進するにあたって、「防災への貢献」「子育てへの貢献」「脱炭素社会への貢献」という共通的に留意すべき横断型の重要な視点を新たに設定します。これらの視点は、地域社会の安全と持続可能な発展を実現するために不可欠であり、市全体がこれらの共通政策の視点を持って取り組むことで、より効果的な成果を生み出すことができると考えております。

2で、基本政策と共通政策の関係を示しています。前回の審議会において、委員の皆様から、「基本政策5にある観光と基本政策2の産業は密接に関係している」という御意見や、「生物多様性は生き物だけではなく、生物文化多様性と言われるようになってきている」などの御発言がありました。6つの基本政策にそれぞれのまちづくり分野を紐付けてはいますが、各まちづくり分野の施策は、それぞれが単独であるのではなく、全ての施策は相互に関連性があることを意識しつつ、また、「防災・子育て・脱炭素社会」への貢献にもつながることを認識し、施策を実施することとしております。

12 ページの「第8章 政策の大綱」は、都市像と基本政策、まちづくり分野、共通政策の仕組みを図示しています。

以上が、基本構想（案）の説明となります。

なお、基本構想（案）につきましても、前回お示しした骨子案に対し頂戴した御意見等を可能な限り反映し、作成しております。この基本構想（案）について本日御審議いただき、後日、箕島会長から基本構想に関する答申をいただいた上で、12月議会に提案し、議決をいただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。

【箕島会長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの市民アンケート、高校生アンケート、基本構想（骨子案）に対するパブリックコメントの結果、基本構想（案）について、御質問・御意見をお受けします。

なお、基本構想（案）に対する御意見については、後日取りまとめて市長に答申しますので、基本構想（案）に対する御意見からお願いします。

まず、本日欠席されている青木委員から御意見を頂戴しておりますので、代読します。

「本日は、徳島県南部総合県民局南保健所にて南部圏域の医療福祉専門向けの「能登半島地震における DWAT」の研修会の講師としての業務があり、一度も出席できていないことを心苦しく思っております。委員の皆様のさまざまな意見でより良い計画を望んでいます。

意見としては、基本政策1に「災害に強く安全・安心な阿南」を第1番目に見直した点が良い。多発する自然災害への市民の安全・安心に、ハード・ソフトの両面からの視点で取組を図ってほしい。」

以上でございます。

（後日阿南市からの回答）

「安全で安心な暮らしを守ることは、まちづくりの基本であり、阿南創生の根幹をなすものであると認識し、災害に強い都市基盤の整備はもとより、市民・企業と連携した地域防災力の向上を目指し、ハード・ソフト両面から取り組んでまいります。」

それでは、他に御意見等がある方は、挙手をお願いします。

【鈴江委員】

前回、市民の皆さんに一番目に留まりやすいキャッチフレーズについて、意見を述べさせていただきました。今回とてもいい形で修正していただいていると思います。特に都市像、「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」は、とてもしっくりきます。

また、後の基本政策についても、意見を述べた立場としてはとても反映していただいていると思います。

ただ一点前回も申したのですが、「こどもまんなか」とは国のこども大綱にも位置づけられている言葉ですが、その言葉を知らない市民の方もいるかもしれませんので、この「こどもまんなか」というキーワードが国の大綱とともに市として取り組んでいくという位置づけを、この基本政策のページの下に注釈で「こどもまんなか」をなぜ付けたのか、国の大綱との絡みなどを説明する文章を加えていただけると、より分かりやすいのではないかと思います。

【事務局】

御指摘のとおり修正させていただきます。

【小笠原委員】

大変素晴らしい修正された構想でほとんど文句を言うことがございません。

ただ、脱炭素について、これは国際的な問題で日本だけではありませんので、ユネスコなど様々なところで動いていますけれども、なぜ脱炭素が必要であるかということの根拠についてはおそらく社会的な風潮で動いているということもあると思います。アメリカの大統領が決まりましたが、実はトランプ次期大統領は脱炭素は必要ないと世界に大きく訴えている人であり、アメリカの科学界でも私の知るところでは、「脱炭素という問題は地球環境と関係ない」という意見も非常に強いです。ただ、日本の政府はこのようなことを温暖化防止のための方策として取り入れるべきであるというスタンスをとっておりますので、阿南市は大きな火力発電所があることも一つですけれども、なぜ必要なのかを市民の方にアピールするような背景を書くべきではないかと思います。

これは阿南市出身の地球科学者がある時にマスコミに対して、地球温暖化は人類の影響ではない、そのようなことを大きく公言をしまして社会的なインパクトを与えたこともあり、私も非常に興味を持っていました。そのようなバックグラウンドを示さないと、ただ脱炭素で温暖化を防止しようでは人々についてこないです。

ある程度、根拠なり方向性を出したらいいのではないかと思います。

【事務局】

阿南市は現在ゼロカーボンシティ宣言もしておりまして、脱炭素の取組を推進しているところでございます。

総合計画におきましては、基本構想と基本計画があり、その前に序論として本市を取り巻く状況等々を説明している箇所がございますので、その中で御指摘がありました脱炭素がどうしても必要なのか、阿南市がどのような取組をしているかということについて、記載をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

【小笠原委員】

はい。分かりました。

【西直子委員】

今日提示していただいた高校生のアンケートの結果を拝見させていただきました。

これに関して、本校（阿南支援学校）の高等部2年生の生徒も、返答できる生徒に限りますけれども、自分たちのまちということで一生懸命考えた結果を反映していただきありがたく思っております。また、新聞や報道で高校生の意見を聞くという記事を最近見たようにも思います。

先ほど御高齢の方、先輩の方を大事にしていくというお話も出ましたが、また一方でこれからまちを作っていくのは、今の小中高校生であると思うので、今回の若い方たちの意見を聞くということはとても大事なことだったかと思っております。

若い人たちに考えてもらうためには、やはり大人の仕掛けがどうしても必要だと私も考えております。今回のように聞かれないとこどもたちはその日その日を生きていますから、自分たちの将来のことを、考える機会はないと思うのですが、大人がこのようなことを考えているんだよ、あなたは どう思う？というように投げかけの機会はこれからも大事だと思いましたので、教育の立場ということで感じたことをお伝えさせていただきました。

【松崎委員】

医療関係のことですが、市民アンケートの意見の中に阿南医療センターをかなりひどく書かれている部分がありました。

ただ、今の前田院長になられてからかなり積極的にいろいろとされています。大きな医師不足の原因があったり、あとは働き方改革です。医師とは8時間労働だけで終わる仕事ではないため遅くまで勤務しないといけないですが、そのようにするとペナルティがあるような仕組みになってしまったので対応の仕方が今非常に困っているところがあります。ドクターの中にはいろいろな個性の方がおられますので、中には患者さんとあまり合わないドクターもいて、以前は私から見ても「ちょっと」と思うようなドクターも昔はいたような気がしますが、かなり改善もされています。

ところが、このアンケートを見ますと、やはり阿南医療センターではなく、日赤に肺炎でも行くとの意見があります。大体普通の肺炎であれば阿南医療センターで十分対応できます。2次救急（阿南医療センター）相当疾患で日赤を受診しますと、日赤の本来の目的である3次救急（最高度の医療）機能が十分に発揮できなくなったこともあります。

昔の阿南中央病院と阿南共栄病院のイメージをずっと持たれている方もいると思いますが、今の前田院長が努力されて、徳島大学と話をされて内容もかなり充実してきましたので、昔のイメージで毛嫌いをせずに、医療センターをもう少し利用していただきたいです。今のイメージは昔と随分違います。徳島大学から若い先生もどんどんと来られていますし、こちらで勉強したいという先生もおられますので、随分と昔とイメージが変わったということを実感していただきたいという思いがあります。ですので、もう少し医療センターのことを知ってもらえるような何か取組をしていただけたらと思います。

【事務局】

県南の医療に関しましては、現在広域行政としまして南阿波定住自立圏という県南1市4町の圏域での取組として、医師の確保を重点的に取り組んでおります。先日、前田院長をはじめ、阿南市長と4町の町長、副町長さんと一緒に県知事のところに陳情に行くなど、医師の確保については力を入れて取り組んでいるところでございます。

一部NHK等で報道はございましたが、市の方もいろいろとアピールが足りないところもあるかと思っておりますので、そのような取組をしているということも積極的に広報していけたらと思います。

【紅露委員】

いろいろと説明をしていただいたり、この構想を見せていただいたりすると、随分素晴らしい内容がたくさんあると思えました。今の医療関係の方のお話や教育の方の意見も素晴らしい内容がたくさんありますので、「広報あなん」をもっとPRする場に使ってほしいです。このような取組をこのようなところで実施して、このようにみんなが子どもたちや子育てのために頭を使って考えているんだよというようにです。今の広報あなんを見ていると、楽しいなと思うようなところが少ないので、もう少し具体的で楽しい、自然もこんなに素晴らしいというような、市民の人たちが阿南市は素晴らしいというようなことを見直せる紙面があればいいと思ったりしています。

【事務局】

御意見ありがとうございます。広報についてですが、今回のこの総合計画見直しについて来年の4月から数か月間にわたって見直した内容を広報させていただく予定としております。

【坂本委員】

御説明いただきありがとうございます。素晴らしい計画だと思います。

私からは、「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」ということで、かなり自然と調和したところに重きを置かれていることについてです。自然環境が3つの共通政策の1つに、次の段階にぜひ上がれば嬉しいと思えました。

アンケートをしましても、市民の方々は豊かな自然環境があることに満足しているという意見が毎回多く挙がってまいります。しかし一方で、市民の方々は本当に自然を見ている、触れているのでしょうかということも感じます。

そういった自然環境が実は劣化している現状の理解や子どもたちが本当に自然環境と触れ合う生活、教育ができていないかなどです。また農林業に関しても、自然環境が本当に十分なのか鳥獣害の問題などいろいろとあるかと思えます。

そのような自然をほったらかしにして大丈夫なんだろうかというところが少し不安に思うところがありまして、阿南市が自然と調和した産業都市を目指すのであれば、その自然環境をしっかり保全するし、それを活用した教育、産業、観光ができるのではないかと思いますので、次の段階でぜひ共通政策のところで、自然環境へのアプローチを御検討いただければありがたいと思います。

【平井副市長】

御意見ありがとうございます。

前回も生物多様性、阿南市の自然を持続可能なものとして大切に次世代でもっと先へ

と積んでいくべきだということで共通政策へという御提言を頂いたところでございます。

それをしっかりと受け止めまして、共通政策の都市像に明確に位置づけをさせていただいたところでございます。ここにあるということは、阿南市の政策を考えていく上で、全てこのことを念頭に置くということでございますので、まずはその点を御理解いただけたらと思っておりますし、柱立てや横軸のあり方について今後、深化のタイミングも出てくるかと思っておりますので、御提案を頂きましたことについては、念頭に置いて取り組んでまいりたいと思っております。

【片山委員】

この計画書は8年の計画書で、今後の4年への見直しということで、前半4年は新型コロナウイルス感染症のことがございました。今後も先行きが見えない時代において、不測の事態が発生する可能性があると思っておりますので、この計画書においての枠を超えた柔軟な対応を答申で添えていただければと思っております。

また、市民アンケートの結果の重要課題、満足度をみますと、その中で重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い分野に対して、市民のニーズ、改善が求められていると感じております。

雇用環境についてですが、やはり子どもが笑顔でいるためには家庭が円満で、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが元気で健康でいる環境が重要ではないかと考えています。やはり経済的な部分がバックにあり、雇用環境が整っていることが必要であると思っておりますので、阿南市に対しましても企業誘致など働く場所の確保を願っております。

また、限られた財源であると今認識しております。その限られた財源を最大限に活用するためにも、行政職員の知恵と、市民の協力やアイデアを結集してほしいと思っております。その機会を設けてほしいと感じています。

もちろん行政職員のアイデアを募るために、労働がオーバーワークになってはいけませんので、オーバーワークにならないような何かアイデアを引き出す、そのような策があればよいと思っております。例えば無記名でこのようなアイデアがありますよというように市長さんや幹部のところへ何かメールなどで簡単に夜でも送ることができるような仕組みがあればよいと思っております。市民にも、そのような機会を設けていただきたいです。

一致協力してこの財源不足などを乗り越えて、強い阿南市をこれからも期待しておりますので、よろしく申し上げます。

【事務局】

阿南市は、職員提案という制度があり、今年度復活し、いろいろな提案を職員から求めているところでございます。

市長、副市長にもすぐに相談ができる体制もLoGoチャットというものがありまして、相談できる状況でございますので、今後もその点しっかり進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

【片山委員】

4年前にも思ったのですが、基本構想の長期ビジョンの文章の中で「戦略的に縮むことを目標に」となっておりまして、「戦略的に縮む」という内容は十分調べて承知して

おります。

ただし、これを市民が見たときに縮むとは負のイメージがありませんか。そのようなイメージがあるので、内容を分かってはいますが、これを使うならば注釈が必要ではないかなと考えています。

インターネットで、ジャーナリストの方が提言した言葉であるということが出てきて調べてみましたが、一般市民からしますと負のイメージを感じてしまいます。ですので、これを使うならば、もう少しイメージしやすいようにしていただけたらと思います。

【事務局】

「戦略的に縮む」という表現につきましては、今回一体化をすることにしております、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも関係がございますので、それを注釈に加えるなり、検討させていただきたいと思っております。

【箕島会長】

続きまして、議題3「基本計画の策定方針について」、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

基本計画の策定方針について、御説明いたします。

資料5を御覧ください。

これは、今後作成する基本政策の構成案となっております。

現在の基本計画から変更した点は、「基本目標」を「重点テーマ」に変更し、KPIの記載の仕方を変更しています。KPIについては、重点テーマにひもづけられた主要な事業のうち、その重点テーマの進捗を図ることができる代表的な指標とし、現行計画の176あるKPIの内容を精査し、おおよそ半分程度の数にしたいと考えております。指標の数については減らすこととしますが、1つの指標に、新たに指標の説明と設定の考え方、得られる効果を記載することにより、それぞれの重点テーマの達成状況を分かりやすくすることを目指しています。また、主要な施策には、下に1行程度でその施策の説明を記載し、別に策定する実施計画に掲載する事業と連動させます。

資料6を御覧ください。基本計画の分野ごとの重点テーマと主要施策の案の一覧となっております。施策等は現在の計画に記載しているものと新たに組み込む予定としているものを記載しております。

次回の審議会では、基本計画（案）について御審議いただき、基本計画についての審議会の答申を頂く流れとしておりますので、本日は、基本計画の構成案や施策の一覧について御意見をいただき、基本計画の策定につなげていきたいと考えております。

また、前回頂戴した御意見のうち、個別の施策に関する事項につきましては、可能な限り基本計画に反映していくこととしておりますので、よろしく願いいたします。

説明は、以上でございます。

【箕島会長】

ありがとうございます。

それでは、ただいまの基本計画の策定方針について、御質問・御意見をお受けします。まず、青木委員からの御意見を代読します。

「現行計画の取組のひとつである「個別避難計画の策定」が進んでおらず、要配慮者、特に介護・障がい分野における官民が連携した取組により、一人でも多くの計画作成を推進してほしい。また、行財政運営の取組のひとつである阿南市公式LINEの登録者数を増やし、災害時の情報発信に継続して活用してほしい。」との御意見でございます。

(後日阿南市からの回答)

「個別避難計画の策定割合は、本年4月時点で、2.4%となっておりますが、今後、南海トラフ地震等に備え、避難行動要支援者の命を守る「誰一人取り残さない防災」を実現し、地域全体の防災力向上と共生社会の実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

また、災害時の情報発信については、さまざまなツールを活用し、災害発生の危険性や避難所情報など、リアルタイムな情報発信に努め、市民の迅速な避難行動につなげてまいりたいと考えております。」

他に御意見等がある方は、挙手をお願いします。

【美濃委員】

資料6の基本政策3の学校教育の「地産地消の学校給食と食育の推進」についてですが、現在阿南市PTA連合会で教育長への要望を作成中であり、その中で学校給食の無償化について要望しようと思っています。前市長もですが、岩佐市長も学校給食の無償化を公約で挙げられています。やはり物価が高騰しているため、それぞれの御家庭で家計が厳しくなっており、ほとんどの御家庭のお父さんもお母さんも働かないと子どもを育てていけないというような状況にもなってきています。日本全体もそのようになってきているのかなと思います。また、阿南市はそれほどではないと思いますが、給食費が払えないという家庭もあるようです。長期の学校のお休みのときに給食がないため、子どもが十分に食べられないという状況もあり、無償化の要望もありましたので、もしよければ早急に検討していただけたらと思います。

子どもも栄養状態が良くないと学力も向上しない、スポーツもできない、様々な地域のボランティア活動等にも反映されていかないと思いますので、検討をお願いいたします。

【平井副市長】

学校給食の無償化については、お話もございましたように市長の重要な公約ということで市民の皆様にも約束をしていることであり、それを私どもの大前提として取組を進めております。

国としても、「こどもまんなか」ということで給食費の政策のあり方について検討していただいていると承知しておりまして、まず財源確保を国と県の方でどこまでしていただけるのか岩佐市長はじめ県内の市町村長さんや四国の市長さんも一緒になって、国への要望活動を積極的に展開をしている状況でございます。

物価上昇が市民の皆様のご生活に非常に影響を与えているということは、私どもも承知しております。学校給食の重要性は申し上げるまでもないですが、食育、体づくり、学びにも直結するということが非常に重要なことだと思っております。

現在阿南市としましては、学校給食の水準を何としてもキープしたいということで、今いただいております学校給食費でまかなえない物価高騰分については市費の方で対応させていただいております。

また、御承知のとおり、米価が今年度上昇しております。それは、阿南市内の稲作農

家の皆様にとっては必要なことでございます。肥料も高騰していますので、どうしても米価の上昇が必要でございますが、それが学校給食費にも跳ね返ってしまうと、やはり学校現場では皆様の生活への影響もあるということから、その米価の高騰分についても、次の12月議会において市の方で負担をさせていただこうという取組をしておりますので、要望についてですが、高騰分を埋める対策ということで一生懸命しておりますという状況報告とさせていただきます。

【坂本委員】

資料6の2の2-3の商業にあります「エコミックガーデニング」という言葉を知りませんでした。どのような内容なのかを教えてください。また、なぜここにエコミックガーデニングが入っているのかという背景も教えてください。よろしくお願いいたします。

【平井副市長】

エコミックガーデニングについてですが、ガーデニングとありますように草花を慈しんで育てるように、ガーデニングのような精神で阿南市内の企業の皆様、特に中小企業、小規模で頑張っておられる企業さんについて、それぞれにふさわしい政策を考えて提供差し上げることで伸びていただこう、そのような思想のものでございます。

それを実現するためには、市が地域の実情をより知り、どのようなニーズがあるのか、それに対応するための国の制度、県の制度もありますので、それをしっかりと念頭に置きながら、市としてどのような制度を設けていくべきなのか積極的に見いだして、メニュー化して、どのような場合でも対応できるようにしていこうという考えのもとでの政策でございます。

企業の皆様にとってみれば個別最適なメニュー、政策が提示される、最終的にそれを選んでいくのかどうかは企業様の御判断ということになりますが、行政としては積極的にそのような提供をできるようにしていこうという考えでございます。

【箕島会長】

エコミックガーデニングですが、これは政府でも使われている用語でしょうか。今の御説明を聞くとガーデニングではなくガーデニングエコミックで、順序が逆かなと思います。英語は使わないほうがよいと思いますが、政府で使われているのであれば、調べていただけたらと思います。

私から質問ですが、資料6の主要施策（案）の項目で赤色の色を付けているところと青色の色を付けているところの違いです。

もうひとつは、a、b、cと書かれています。例えば4-3障がい者福祉の障がい者相談支援体制の強化にaと書いて何も記載がありません。また、3-1出会い・結婚へのサポート体制の構築でもa、bと書いてありますが何も記載がありません。それについては今後入れるということでしょうか。aとbで2つあるところは2つの政策、aしかないところは1つの施策を考えるということでしょうか。

あるいはこの項目は今後考えていくということでしょうか。

【事務局】

ただいまの御質問ですが、まず色がついている項目に関しましては市長公約等を基に

いたしまして、新たに今回取り入れるようにいたしました施策を色付けしております。

a、bの表示については、順番に分かりやすくするために番号を振っております。御指摘の3-1-1 出会い・結婚へのサポート体制の構築、a、bとなっておりますが、これは今回の見直しにおいて新たに取り入れる重点テーマとなっておりますので、現在紐づいている事業の施策がございませんので空欄となっております。

今後、当てはまる事業や施策等を検討いたしまして、加えていくようになります。数が2つあるという訳ではなく、今後ここに当てはまる施策を考えていくことにしております。

【箕島会長】

赤色と青色の差は为什么呢。

【事務局】

赤色は市長公約等を反映して新たに検討している項目となっております。

【箕島会長】

1-3の土地利用の集住型のコミュニティづくりの推進にある、多極ネットワーク型コンパクトシティの推進とは、ドイツ型をイメージされているんですね。これは非常に重要なので推進していただけたらと思います。多極ネットワーク型、ドイツの町とは、ギュギュッと固まったものが点在していて、家が集合しており、その間は通常は片側1車線の道でそれぞれつながっていて制限速度100 km/hで走れるような町づくりをしています。その間は畑や放牧地が多いですが、そのようなイメージをされているのかなと用語からみて思いました。

そのような場合は、市民の交流も増えますし、町の中で活性化しますので、非常に市民の生活がしやすく、快適になります。

例えばドイツですと、下水道を造る、水道を造るにしても安くできます。ある村から少し離れたところに点在していると、そこまで電線をつながないといけない、下水道を通さなければいけなくなりますとどうしてもコストがかかります。ところがギュッとコンパクトになっていますと、電線地中化もしやすく、安くできます。それから、色々な人が顔見知りにもなりますので、助け合いもでき友達もできます。

また、ドイツではアウトバーンがありますので、日本とは違うのですが、町から町へ移動が非常に早いです。日本でそのような状況になるのは困難かと思いますが、ドイツはそのような形で町づくりをしています。

日本では難しいかと思いますが、非常にコンパクトでギュッと固まるように誘導すれば、町は活性化するのではないかと思いますので、重点的に進めていただけたらと思います。

私のイメージとは違うのかもしれませんが、ネットワーク型コンパクトシティと書いてありますので、コンパクトな町がネットワークを形成して、阿南市を創っていくという理解でよろしいでしょうか。

【平井副市長】

御提言ありがとうございます。会長がおっしゃっていただいたようなイメージでございます。御承知のとおり都市計画法もございます。阿南市においても、いわゆる市街化

区域と市街化調整区域で市街化区域の方に住居や商業施設を誘導していこうという考えがあります。さらに進めまして、それをより具現化していくための立地適正化計画を作成しております。具体的には、JRの各駅の阿南駅、羽ノ浦駅、阿波中島駅、見能林駅等ございますけれども、そのような駅を一つの拠点としながら、公共施設、商業施設も含めてできるだけ誘導していこう、それによりコンパクトな利便性の高いまちづくりを進めていこうとしているところでございます。

具体的には、今回の主要政策にも入っておりますが、新しい中央図書館につきましては阿南駅のすぐ近くということで、既にこの立地適正化計画を具現化するための一つの重要な事業と考えております。もうひとつは那賀川社会福祉会館が阿波中島駅周辺にありまして、そちらも老朽化しているため改築の必要性が高まっております。その改築に合わせまして、周辺にあるいくつかの公共施設がございますので、再編統合していこう、それによって、よりコンパクトで市民の皆さんにとって便利な施設を作って他の商業施設、住居を導いていこう、という考えを持って取り組んでいるところでございます。御紹介ということで、説明をさせていただきました。

【美濃委員】

駅の周辺とのことですが、駅がないところはどうなりますか。

【平井副市長】

今後のまちづくりの方策として、立地適正化計画を作って、駅周辺を活性化させるということは政策としてございます。

阿南市には、14地区ございます。伊島を入れますと15地区になります。それぞれの地域の個性を大事にしていくという精神がまずあります。それを大前提として、立地適正化計画もあるということでございます。

JRの駅と申し上げましたが、もう一つのインフラとして現在、南部自動車道や国道のバイパス化も進んでおりますので、インター周辺、工業団地、住居も合わせてのまちづくりができないだろうかということについて問題意識として持っております。駅周辺だけ考えているということではないということは、はっきりと申し上げられますので御理解いただければと思います。

【美濃委員】

資料6の6-2市民参画のaに「わが町予算」とありますが、これはどのような予算ですか。どのようなことに使われる予算でしょうか。

【事務局】

赤色で示しておりますので、先ほど説明をしましたとおり市長の公約の一つであります。

現在、企画政策課が地域で使える補助金のようなものということで制度設計をしているところです。

【岩佐市長】

私の公約ともなっております、14地区ごとのまちづくり、拠点づくりと考えています。先ほどの立地適正化計画やコンパクトなまちづくりについて、やはり集約もあると

思いますので、駅やある程度交通の結節点があるようなところはそこを中心にして思っております。

ただし、阿南市は広いところでありますし、今までの歴史も重ねてきて阿南市全域に住まわれていますので、それを一気に都市部に寄せていこうということではありません。

公民館は、コミュニティが形成されたり、人とのつながりが維持できる場所ですので、それぞれの拠点になると考えています。例えば加茂谷地区であれば加茂谷公民館で、当初申し上げた住民自治というような考え方で、自分たちで加茂谷の町をこうしていこう、桑野地区であれば桑野公民館で何かしていこうというような意味合いで、地区ごとの自由度の高いものを「わが町予算」という形で考えているところであります。その制度設計は企画政策課長が説明しましたとおり、現在検討しているところですので、14地区それぞれの個性を生かしていただけたらと思っています。都市像にも関わってきますが、それぞれの個性、地域の個性も輝いてほしいという思いを持っています。

【美濃委員】

1年間に1地区にどのぐらいの予算がつくか金額はもう出ていますか。

【岩佐市長】

検討中です。

【紅露委員】

高校生アンケートの問19は、私達も高校生も望むことですので、この意見を十分大切にしてほしいと思います。

【箕島会長】

委員の皆様におかれましては、貴重な御意見をいただき誠にありがとうございました。

先ほど議題2で審議いたしました基本構想の素案については、本日委員の皆様から頂いた御意見を取りまとめ、後日私から市長に答申したいと思います。

皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【箕島会長】

後日、答申案については、事務局を通じて確認をとります。

それでは、市におかれましては、本日各委員から出された意見を参考にいただき、基本計画の中間見直し作業を進めていただきたいと思います。

これをもちまして本日の議題は全て終了しました。

委員の皆様におかれましては、スムーズな議事進行に御協力いただき、誠にありがとうございました。

【事務局】

箕島会長ありがとうございました。

委員の皆様、大変貴重な御意見を頂きましてありがとうございました。

後日答申を頂きまして、来月12月議会で議決を頂く予定となっております。そして、次回第3回総合計画審議会は、先ほども申しましたが基本計画案について御審議をいただく予定です。来年2月に開催を予定しております。

日程が決まり次第お知らせさせていただきますので、委員の皆様におかれましては御多忙のところ恐れ入りますが、御出席のほどよろしくお願いいたします。

本会議はこれで終了させていただきます。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

(15:35 終了)